9. 図書館評価

図書館運営を振り返り、効果的・効率的な運営と、より一層の図書館サービスの向上および地域との情報共有をはかる仕組みとして、平成 20 年度から「豊中市立図書館評価システム」（以下「評価システム」）を導入し、図書館運営に関する自己点検と外部評価を実施している。毎年の評価項目・指標については「豊中市の図書館活動Ⅱ 統計・資料」に簡略化して掲載している。

それまで「評価システム」でおこなっていた進捗管理を「豊中市立図書館の中長期計画（豊中市立図書館グランドデザイン）」（以下「グランドデザイン」）の策定を機に、平成 26 年度からは「グランドデザイン」の進行管理と一体化した。さらに、令和 2 年度は「豊中市（仮称）中央図書館基本構想」（以下「基本構想」）の策定を機に「グランドデザイン」の目標設定や進行管理は「基本構想」に包含する形で継承することとなった。

令和 3 年度は、5 年ごとに実施する自己点検および外部評価にむけて、「基本構想」の評価指標を取り込み、評価項目表の見直しをおこなった。また「基本構想」の評価指標の一つ「利用者満足度」をはかる試行調査として「来館者アンケート」の質問内容を検討した。来館者アンケートは図書館協議会での議論を経て、令和 4 年度実施する予定である。

10. とよなかブックプラネット事業

学齢期の子どもたちの多様な読書・学習活動をささえるため、学校図書館と公共図書館の蔵書を一体的かつ効果的に活用する環境を整備し、相互の連携強化に取り組んでいる。

コロナ禍で集会が困難なため「知的探究合戦 めざせ！図書館の達人」および「豊中市ビブリオバトルチャンピオンシップ中学生大会」に替えて、以下の事業をおこなった。

「図書館の達人への道」は、調べ学習用ワークシートを配布し、調べた成果物を募集した。「本の紹介達人」は市内中学校で生徒がおすすめ本を紹介する様子を撮影し、動画を作成して表彰した。「図書館の達人への道」ワークシートの展示発表と「本の紹介達人」動画の上映会を「子ども読書活動フォーラム」として公共図書館 4 館（岡町・庄内・千里・野畑）で開催し、児童生徒の読書活動について市民に知ってもらう機会とした。

11.（仮称）中央図書館基本構想

「豊中市（仮称）中央図書館基本構想」（以下「基本構想」）策定に向け、令和 3 年度に実施した取り組みは以下のとおり。（5 ページ参照）

＜サウンディング型市場調査の実施＞

8 月に（仮称）中央図書館の候補地や整備手法、施設の魅力向上の可能性などを明らかにし、今後の検討に反映することを目的として、サウンディング型市場調査*を実施した。幅広い 18 の事業者・グループと対話を実施し、事業手法や複合化、魅力ある空間づくりなどについてメリットや課題を整理した。

＊ 新たな公共施設整備や公共サービスの提供を検討する場合において、民間事業者などとの対話を通じ、より良い方法を探ることを目的に実施する市場調査のこと。

＜図書館関係団体向け勉強会＞

「これからの公民学連携と図書館について」をテーマに、令和 4 年 3 月に、豊中市立図書館関係団体を対象とした勉強会を開催した。

創造改革課の職員を講師として、「豊中市における公民学連携の取組みについて」と題した講演を実施したほか、（仮称）中央図書館の整備に向けた検討状況と基本構想に基づく取組状況として電子書籍や読書バリアフリーについて、職員より説明をおこなった。

新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインを併用し、会場 21 人、オンライン 14 人の合計 35 人の参加があった。

＜（参考）（仮称）中央図書館基本構想に定めた評価指標＞

「基本構想」では、進行管理を目的とした評価指標と目標を設定している。令和 3 年度の各評価指標の値は以下のとおり。

評価指標		目標水準	令和 3 年度
指標①	実貸出利用率	中央館開館の翌年度に 20%	14.4%
指標②	全館の年間利用者数	中央館開館の翌年度に 200 万人	1,350,751 人
指標③	国立国会図書館レファレンス協同データベースに公開したレファレンス事例のアクセス数	60 万件以上	960,364 件
指標④	総出版数に対する図書館における購入タイトル数の比率	50%以上	52.0%
指標⑤	市民一人あたりの図書館費*	令和 6 年度に 2,300 円 中央館開館の翌年度に 2,000 円	2,501 円
指標⑥	利用者満足度	（令和 4 年度実施予定の来館者アンケートにて試行調査）	

＊ ここで言う図書館費とは、予算上の図書館費だけでなく、公共図書館の維持管理運営に関係する経費の総額とします。